

2013年7月19日

国立社会保障・人口問題研究所 DP 発表会

Ryutaro Fukahori, Kazuma Sato and Tadashi Sakai

“The Effects of Providing Informal Care on Labor Force Participation, Subjective Health, and Life Satisfaction among Middle-aged Family Members”に対するコメント

滋賀大学経済学部

佐野 洋史

I. 本研究の概要と貢献

- 目的) ・ 家族介護が中高齢者の就業決定や労働時間に与える影響を明らかにすること
- ・ 家族介護が中高齢者の健康状態や生活満足感に与える影響を明らかにすること
 - ・ 介護保険制度の導入による中高齢者の就業促進効果を明らかにすること
- 方法) ・ 50～64歳の夫1502名と妻のパネルデータ(97、99、01、03、05年)を使用
- ・ 家族介護や介護保険制度導入が就業決定、労働時間(夫のみ)、健康状態、生活満足感(夫のみ)に与える影響を、固定効果ロジットモデル等で推定
 - ・ 家族介護と就業の内生性に対処するため、パネルデータを用いて観察されない個人の異質性を制御し、家族介護の変数には夫(妻)が介護者が否かではなく、より外生的な世帯内に要介護者がいるか否かを採用
 - ・ 介護保険制度導入の影響をDID(差の差分法)で推定する際、プロペンシティスコア法を用いて交絡要因を制御した推定を実施
- 結果) ・ 家族介護は、夫と妻の就業を抑制していた。しかし、夫の労働時間には影響していなかった。
- ・ 家族介護は、夫や妻の健康状態、や夫の生活満足感には影響していなかった
 - ・ 介護保険制度の導入は、夫と妻の就業を促進していなかった
- 貢献) ・ 家族介護に関するパネルデータ分析はまだ少なく、得られた知見は貴重である
- ・ 家族介護と就業決定だけでなく、健康状態や生活満足感との関係性まで明らかにしている
 - ・ 家族介護と就業決定の内生性に対処した分析を行っている
 - ・ 介護保険制度の政策効果を精緻に分析している

II. コメント

1. 本研究は家族介護と就業決定の内生性について、パネルデータの使用や、家族介護の変数に世帯内要介護者の有無を用いることにより対処している。しかし、介護変数に世帯内要介護者の有無を用いても、要介護者との同居と就業が同時決定であれば内生性が生じると考えられる。本研究は、この同居と就業の同時決定に対処しているのか。

7節「考察」の冒頭でこの点に触れられているが、本データ（対象世帯）にはこの問題が影響しないのであれば、そのことをより丁寧に説明すべきである。

2. 家族介護の変数に、介護をしているか否かではなく要介護者がいるか否かを用いることによって当該変数の外生性が考慮されている半面、介護が就業決定や労働時間に与える影響が過小評価となっていないか。酒井・佐藤（2007）をみる限り、この調査データには主たる介護者が配偶者（妻）である世帯が多いことが予想される。特に夫の推定結果（表 4-a、5）において、家族介護による就業抑制効果が過小に表れている可能性がある。
3. 家族介護の変数に、夫や妻が介護をしているか否かを用いた上で、操作変数法による推定は実施できないのか。本研究で用いられている世帯内要介護者の有無が外生的なのであれば、その操作変数になり得ると考えられる。また、Ciani（2012）や Heitmueller（2007）といった既存研究で用いられている操作変数は参考にならないのか。
4. 就業決定や労働時間に対する説明変数に回答者の主観的な健康状態が用いられているが、健康状態と就業決定や労働時間の内生性には対処しなくても良いのか。濱秋・野口（2010）は、操作変数法により、中高齢者の健康状態と就業決定や労働時間との内生性に対処している。
5. 表 6 に見られるように、介護保険制度以降の家族介護が、夫・妻ともに主観的な健康状態をより悪化させているのはなぜか。
6. 本研究と酒井・佐藤（2007）の相違点（更に明らかになった点）を、より強調した方が良いのではないか。介護保険制度の導入が就業決定に与える影響について、プロペンシテイスコア法で揃えたデータセットを用いても確認できなかったことは、より強調されるべきであろう。
7. 表 4 以降の回帰分析の結果は、偏回帰係数値と限界効果のどちらを示しているのか。13 ページの記述と見比べると、おそらく係数値であると考えられるが、表中に明記した方が良い。

なお、文中において家族介護等の影響を限界効果で記述するのであれば、表にも限界効果の数値を示した方が良い。

以上